

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年12月22日

協議会名: 古河市公共交通活性化会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
・総和中央交通株式会社 ・三和交通有限会社 ・諸川タクシー有限会社 ・有限会社総和タクシー	デマンド交通「愛あい号」R5・3月まで 営業区域: 総和・三和地区 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 8時～16時 (土曜は14時まで) 運賃: 300円・500円  R5・4月～ 営業区域: 古河・総和・三和地区 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 8時～16時 (土曜は14時まで) 運賃: 300円・500円・800円	前回のアンケートを実施した結果を受け、ニーズを検証した結果、令和5年4月より営業区域を古河地区まで拡大し市内全域することで、利用者の利便性向上を図り、利用者数増加となった。 また、引き続き、高齢者運転免許証自主返納等支援事業を促進した。自動車運転免許証自主返納者に対して、コミュニティバスやデマンド交通のチケットを交付し、公共交通利用者への転換・新規登録者及び利用者の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標: 平均利用者数117.4人/日 実績: 平均利用者数105.3人/日 分析: 上期(R5・3月まで)長引くコロナ禍の影響で目標通り利用者に達してなかったが、下期(R5・4月～)コロナ感性症も5類となった事や運行を古河地区まで延伸し市内全域運行となった事から利用者数は増加傾向となったが年間平均とすると目標値に達していない。	今後WEBでの予約や時間便制を無くし利用者の利便性を図り、効率化も図れるよう見直しを検討し、利用者数の増加を狙う。 また、積極的な広報活動、自動車運転免許証を返納した高齢者の公共交通利用への転換を促進し、持続可能な公共交通ネットワークを構築する。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	新型コロナウイルス感染症の影響により、1日当たりの平均利用者数の目標値は達成できなかったものの、自動車運転免許証自主返納者に対して行っている公共交通利用への転換促進の取組は評価できる。営業区域の拡大により利用者数も増加傾向が見られるため、引き続き利用促進の取組を進めていただきたい。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
---------------------------------	--

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月31日

協議会名: 日立市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
特定非営利活動法人助け合いなかさと	<p>デマンド型交通「なかさと号」            営業区域:日立市中里地区(東河内町、中深荻町、下深荻町、入四間町)            運行日:月曜～金曜(原則)            運行時間帯:8時30分発～14時30分発            運賃:            中里地区内運行 1外出当たり300円</p>	<p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。            ・高齢者の地区内の移動手段を確保し、他の交通事業者との調整を図りながら、高齢者運転免許自主返納者への回数券交付などの利用者や、交通弱者に対する移動手段確保、利便性の向上のための施策を図った。</p>	<p>A            ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B            ○ 目標            令和2年度の利用者数に対し110%            ○ 実績値            1日あたりの乗車人数:14.8人            (R2年度比108.0%、対前年度比102.1%)            ○ 考察等            ・なかさと号は、地区内の交流センターや運動場での地域イベントに参加する方が多く利用している。令和元年12月以降に流行した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和5年度についても、地域イベントの実施回数が戻りきっておらず、基準年度に対しての目標値は達成できなかった。しかし、対前年度に対しての利用者数は増加傾向にあることから、引き続き利用の促進を図り、山間地区にある中里地区の運転免許を持たない交通弱者の移動手段の確保、利便性の向上を図っていく。</p>	<p>・引き続き、中里地区の高齢者や免許を持たない方の移動手段を確保するとともに、高齢者の運転免許自主返納者に対するなかさと号利用回数券の交付を推進する。            ・運行区域内の医院・商店などが年々閉業しており、区域内にある生活利便施設のみでは、地域住民の生活に支障をきたしていることから、路線バス等との連携により、区域外施設とのアクセス向上を図り、高齢者の安心・安全な移動手段の維持・確保を図っていく。</p>

茨城交通(株)	<p>系統:日立駅中央口～ケースデンキ日立店前～平和台霊園線(11.2km)          運行回数:21回/日          運賃:190円～530円</p>	<p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。          ・地域住民、交通事業者とパートナーシップ協定を締結して、乗車促進活動に取り組んだ。          ・乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を支援し、継続的な活動に協力した。</p>	A <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	B <p>○ 目標          令和2年度の利用者数に対し110%          ○ 実績値          1便あたりの乗車人数:23.1人          (R2年度比100.8%、対前年度比105.9%)          ○ 考察等          ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通退勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測されるが、対前年と比較して利用者数の増加がみられており、沿線学校・企業等への移動手段として、幹線の交通軸と接続する交通ネットワークを確保できた。</p>	<p>・利便性の高い市内南北路線維持のため、住民主体の利用促進活動を今後も継続する。          ・パートナーシップ事業を継続し、乗車促進活動を行う地域団体に対し、活動助成金の支援やアドバイス等でのサポートを継続する。          ・沿線にある企業等に対する利用促進活動を実施していく。</p>
茨城交通(株)	<p>系統:おさかなセンター～サンピア日立～大甕駅西口(学園前)線(3.3km)          運行回数:          R4年10月～R5年8月:4回/日          R5年9月:3回/日          運賃:150円～200円</p>	<p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。          ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。          ・当クラブが主体となり、ひたちBRTのお絵かきコンテストを実施し、応募のあった作品をバス車内や目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。          ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p>	A <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	B <p>○ 目標          令和2年度の利用者数に対し110%          ○ 実績値          1便あたりの乗車人数:10.5人          R2年度比:94.5%、対前年度比98.1%)          ○ 考察等          ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通退勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測される</p>	<p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p>

茨城交通(株)	<p>おさかなセンター～サンピア日立～多賀駅前線(8.7)km          運行回数:          R4年10月～R5年8月:43回／日          R5年9月:41回／日          運賃:150円～480円</p>	<p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。          ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体に組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。          ・当クラブが主体となり、ひたちBRTのお絵かきコンテストを実施し、応募のあった作品をバス車内や目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。          ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p>	A	<p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>○ 目標          令和2年度の利用者数に対し110%。          ○ 実績値          1便あたりの乗車人数:19.7人          (R2年度比110.0%、対前年度比102.6%)          ○ 考察等          ・当該システムを利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられた一方で、沿線の学校等で対面での通常授業が再開したほか、外出自粛等の行動制限が無くなったことから、目標達成に至ったと想定される。</p>	<p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p>
茨城交通(株)	<p>おさかなセンター～多賀駅前線(8.3km)          運行回数:          R4年10月～R5年8月:19回／日          R5年9月:16回／日          運賃:150円～480円</p>	<p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。          ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体に組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。          ・当クラブが主体となり、ひたちBRTのお絵かきコンテストを実施し、応募のあった作品をバス車内や目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。          ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p>	A	<p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>○ 目標          令和2年度の利用者数に対し110%          ○ 実績値          1便あたりの乗車人数:25.8人          (R2年度比100.0%、対前年度比130.3%)          ○ 考察等          ・当該システムを利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通通勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測されるが、対前年と比較して利用者数の増加がみられており、沿線学校・企業等への移動手段として、幹線の交通軸と接続する交通ネットワークを確保できた。</p>	<p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p>

茨城交通(株)	<p>大甕駅西口(学園前)線～多賀駅前線(5.4km)          運行回数:          R4年10月～R5年8月:51回／日          R5年9月:45回／日          運賃:150円～380円</p>	<p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。          ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。          ・当クラブが主体となり、ひたちBRTのお絵かきコンテストを実施し、応募のあった作品をバス車内や目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。          ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p>	A	B	<p>○ 目標          令和2年度の利用者数に対し110%          ○ 実績値          1便あたりの乗車人数:12.9人          (R2年度比104.0%、対前年度比104.8%)          ○ 考察等          ・当該システムを利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通退勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測されるが、対前年と比較して利用者数の増加がみられており、沿線学校・企業等への移動手段として、幹線の交通軸と接続する交通ネットワークを確保できた。</p> <p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、地域住民や交通事業者と連携した路線バス乗車促進活動や、高齢者運転免許自主返納者へ乗車回数券を交付などの取組みは評価できる。前年度から利用者数は回復傾向が見られるため、引き続き利用促進の取組を進めていただきたい。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。          ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月29日

協議会名: 牛久市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道株式会社	<p>「牛久市コミュニティバスかっぱ号」の運行</p> <p>・朝夕の通勤・通学者を対象とした路線(3路線) 上柏田・むつみルート(朝) 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:6回/日 運賃:170円 上柏田・むつみルート(夕) 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:9回/日 運賃:170円 さくら台・みどり野ルート 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:13回/日 運賃:170円</p> <p>・日中の外出者を対象とした路線(2路線) みどり野ルート 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:12回/日 運賃:100円 刈谷ルート 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:6回/日 運賃:100円 ※上記5ルートにて車両減価償却費補助活用 (ノンステップバス2両)</p>	利用実績のデータや利用者からの意見、鉄道ダイヤ等を分析し、利用者の要望に対応するダイヤ改正やルート変更の検討を行った。	A 計画どおり、平成25年4月1日より、全ての路線の運行が開始された。	C 令和5年度(R4.10.1～R5.9.30)の評価において、目標値を上回る項目はなかった。目標未達成の理由として、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限は解除されたものの、社会に新しい生活様式が定着したことにより、コロナ以前の利用水準には未だ戻っていないということが考えられる。 ・利用者数 (目標値:300,000人/年以上) (今年度実績値:269,052人/日) ・利用者一人当たりの市の負担額 (目標値:260円/人以下) (今年度実績値:288円/人) ・収支率 (目標値:25%以上) (今年度実績値:21%)	<p>・かっぱ号の利用を希望する小学生を募集の上、お試し乗車券を配布し、利用機会の創出を行うことで、将来のコミュニティバスの利用者増加へと繋げる</p> <p>・路線バス、かっぱ号、鉄道等の路線図・時刻表を集約した公共交通マップの作成及び配布を行うとともに、利用促進キャンペーン等を通じ広く市民に周知して、利用者の増加を図る。</p> <p>・バスロケーションシステムのPRを継続して行う。</p> <p>・市民アンケートや、利用実績データ等の調査・分析を行い、必要に応じて計画や目標値の変更等を検討する。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>利用者数、利用者一人当たりの市の負担額、収支率の目標は達成できなかったものの、公共交通マップやお試し乗車券の作成・配布により利用促進に取り組まれ、利用者が前年度よりも増加している点について評価できる。</p> <p>また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</li> <li>・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</li> </ul>				

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月28日

協議会名: 常総市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関鉄タクシー(株)	デマンド交通(常総市内全域)	<p>「運行委託事業者との対話を通し、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しを行い、周辺環境や行動特性の変化に対応すべき」との前回の評価結果を受け、令和6年夏に予定している予約システムの更改のタイミングに合わせたサービス提供方法の変更(1時間間隔運行から随時運行への変更、インターネット予約対応等)について、市で検討を進めている。方針が固まった段階で事業者も交え協議を進めていきたい。また、同じく前回の評価結果にあった、「地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みの構築」については、具体的な検討はできていないが、令和6年春からのコミュニティバスの新規運行、前述のデマンドサービスの見直しに合わせて検討していきたい。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 目標とした1日平均利用者数71.0人に対し58.7人であり、目標を下回る結果となった。</p>	<p>運行委託事業者が年々減少してきている中で、変わらずにサービスを提供していくためにも、サービス提供方法の見直しが必要である。 令和6年度に、コミュニティバスの新規運行、デマンド交通の予約システムの更新が予定されていることから、デマンド交通、コミュニティバス、その他交通モードの役割分担を図り、デマンド交通の担うサービス提供の在り方について検討していく。</p>
松並タクシー(有)					
(有)三妻タクシー					
水海道ハイヤー(有)					
石塚タクシー(有)					

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>1日平均利用者数の目標は達成できていないものの、引き続き運行を確保維持しながら、路線の再編等について前広に事業者と協議を進めていただきたい。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>
--------------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月24日

協議会名: 土浦市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
土浦市地域公共交通活性化協議会 (運行は関東鉄道(株)に業務委託)	キララちゃんバス 運賃150円 ※障害者・小学生割引有り。未就学児無料  【亀城公園循環】 運行時間: 7:20～19:35 系統: 土浦駅西口～亀城公園前～土浦駅西口(9.1km) 左回り: 6回/日 右回り: 8回/日 【霞ヶ浦循環】 運行時間: 7:20～19:40 系統: 土浦駅西口～霞ヶ浦湖畔～土浦駅西口(11.9km) 左回り: 6回/日 右回り: 8回/日 車両減価償却費等国庫補助金活用(ノンステップバス1台)	・利用促進調査研究として、令和5年9月21日に「キララちゃんバスワークショップ」を行った。  ・キララちゃんバスPRのため、沿線の観光・飲食店情報等を掲載した沿線MAPの作成を継続して作成した。  ・利用者に気持ちよくバスを待ってもらうため、バス停留所のボランティア清掃イベントを令和5年9月30日に実施した。  ・キララちゃんバスに親しみをもってもらうため、地元商店会主催のイベントへの出店や、バスを活用した神社仏閣巡りを開催した。	A 事業は適切に実施された。	A  令和5年度目標値 ・年間乗車人数102,400人 ・運賃収入14,200千円  令和5年度実績値 ・年間乗車人数111,656人(達成率109%) ・運賃収入14,900千円(達成率105%)  新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ収束していることもあり、乗車人数、運賃収入共に回復し、目標値を達成できた。	・引き続き利用促進調査研究として、利用者等アンケートの実施やワークショップを行っている。  ・キララちゃんバスPRのため、沿線の観光・飲食店情報等を掲載した沿線MAPの作成を継続する。  ・利用者に気持ちよくバスを待ってもらうため、バス停留所のボランティア清掃イベントを継続する。  ・利用者ニーズに合わせた便数の調整等を検討する。
土浦市地域公共交通活性化協議会 (運行は関東鉄道(株)に業務委託)	中村南・西根南地区コミュニティ交通 運行時間: 8:00～17:45 運賃: 200円 ※障害者・小学生割引有り。未就学児無料 系統: 荒川沖駅～カスミ中村店～霞ヶ浦医療センター (往路: 14.0km、復路: 14.1km) 5往復/日	・利便性向上のためバスロケーションシステムを導入した。  ・バスの混雑状況や乗車人数を確認できるシステムを導入した。  ・視認性や認知度向上のためバスラッピングを行った。	A 事業は適切に実施された。	A  令和5年度目標値 ・年間乗車人数9,620人  令和5年度実績値 ・年間乗車人数9,339人(達成率97%)  各地区での周知活動を行った結果、認知度向上が図られ、目標値を概ね達成できた。	・認知度向上に向けた利用促進グッズの作成や、運行地区イベントでの出店を行う。  ・利用ガイドブックの更新を行う。

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

公共交通マイ時刻表作成サービスやバスの乗り方教室の開催など利用促進に取り組み、年間乗車人数、運賃収入の目標値が達成できている点は評価できる。引き続き、周知活動や利便性向上に係る取組を期待したい。  
また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。  
・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月22日

協議会名: 龍ヶ崎市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社佐貫タクシー 布川交通株式会社	運行系統名: 龍ヶ崎市乗合タクシー 営業区域: 龍ヶ崎市内全域 運賃: 500円 運行日: 全日(1月1日～1月3日を除く) 運行時間帯: 8時00分(1便目)～ 18時30分(8便目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市広報紙への利用促進記事の掲載等により、利用促進を実施した。</li> <li>利用者の移動手段の確保と、市内における交通空白地域が発生しないよう運行を継続した。</li> </ul> <p>・令和6年度計画においては、これまでに引き続き「乗合率」を目標に記載したほか、令和5年3月に策定した「龍ヶ崎市地域公共交通計画」に基づき、「年間利用者数」、「利用者1人1回あたりの公的資金投入額」を新たな目標として追加した。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できない点があった。  目標:乗合率30.0% 実績:27.3%(令和4年度実績) 分析:昨年より回復傾向がみられたが新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少が主な理由として考えられる。	新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、利用者の回復が見込まれるが、今年度からの移行であることから、利用者数の増加については未知数と考えられる。また、需要の多い目的地の追加について事業者と協議したものの、乗合タクシーの利便性向上による既存公共交通利用者の減少、さらには乗合タクシー事業の負担増加による一般タクシー事業の圧迫などの懸念が浮き彫りとなったことから、引き続き時間をかけて事業者と対話を続けていく必要があると考える。当事業については、市内に公共交通空白地域が発生しないよう継続させていくとともに、他の公共交通機関との役割分担を明確にしながら、引き続き当市にふさわしい事業の在り方を検討していく。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	市広報紙への記事掲載や敬老会での周知活動、公共交通全般に対する講座などの公共交通の利用を促進する取組は評価できるが、乗合率の目標値は未達成となった。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
---------------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: かすみがうら市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関鉄グリーンバス(株)	系統名:霞ヶ浦広域バス 運行区間:玉造駅~土浦駅	令和5年度の計画については新型コロナウイルスによる利用状況が改善されると見込み利用者数及び収支率目標を設定した。 学生向けの通学定期券「スクールパス」の広報周知を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・利用者数 目標:36,500人 実績:33,695人 ・収支率 目標:67% 実績:55.9%  令和5年度実績は、コロナ禍の影響も緩和してきたためか、利用者数は前年30,105人に対し33,695人と改善された。収支については前年度8,814千円に対し、今年度10,541千円とこちらも改善された。いずれも目標値には届かなかったものの、前年度より回復という結果となった。	・新中学生、新高校生に向け通学乗車券「スクールパス」の広報周知を強化し、バスの利用促進につなげる。

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

利用者数、収支率の目標値は達成に至らなかったが、バス車内のWi-Fi整備やリアルタイムバス位置情報の提供など利用者の利便性向上を図る取組は評価できる。引き続き、新高校生を含む通学利用者への周知活動など、スクールパス等の利用促進に取り組まれることを期待したい。  
また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。  
・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月24日

協議会名: つくばみらい市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>守谷タクシー有限会社 有限会社常陽観光タクシー さくら住宅株式会社</p>	<p>デマンド乗合タクシー「みらいくん」 利用対象者:本市に住居登録されている方で、一人で乗降が可能な方 運行区域:つくばみらい市全域(つくばみらい市限定) 運行日:月～土曜日(12/29～1/3は運休) 運行便数:1日最大16便(1回につき最大2台) 利用料金:別添「運賃表」のとおり 予約受付:利用を希望する3運行日前から、運行日の60分前まで。ただし運行日の午前8時～午前10時までは、前日までの予約 予約受付時間:午前8時30分～午後5時(運休日を除く)</p>	<p>①福祉関係部署と連携し、窓口来庁者に対して利用促進を実施。 また、免許返納担当部署とも連携し、併せて利用促進を実施した。 ②デマンド乗合タクシーの利用促進を図るため、市内イベントでの周知活動、市HPIによる公共交通を活用した市外総合への乗り継ぎ案内などを実施。</p>	<p>A 計画通り、事業は実施された。</p>	<p>A 目標である1日平均利用者数21人に対し、24人の利用となり、目標を達成した。未就学・介助者は前年度比で50人減少したものの、大人、小人・障がい者の利用者数が合わせて818人増加し、総利用者数は7,401人と前年度比で768人増加した。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う外出制限の完全撤廃、利用者の外出に対する考え方の変化が増加の一番の要因と考えられる。実利用者数は前年度比5人増と微増であり、1人当たりの利用回数が大きく増加した形となった。</p>	<p>デマンド乗合タクシーの登録者数や認知度もまだ低い状況であるため、広報紙や市内イベント等で幅広く周知するとともに、利用需要のある子育て世帯や高齢者・運転免許返納者等に対してPR活動を行い、利用促進を図る。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>市内関係部署と連携したチラシ配布や市内イベントでの周知活動など積極的な利用促進に取り組み、1日平均利用者数の目標を達成されたことを評価する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>
--------------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月12日

協議会名: 阿見町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(有)新町タクシー	陸上交通に関わる 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統) 区間: 阿見町全域及び JR荒川沖駅東口付近 デマンド型交通名: あみまるく ん 運行日: 月曜日～金曜日 (祝・祭日及び年末年始は運 休) 運行時間: 午前8時から午後5 時まで 利用方法: 電話予約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報あみへの掲載、あみまるくんの利用案内を行政区への回覧により、周知促進を行った。</li> <li>・地域公共交通計画の施策に設定した、町ウェブサイト内のリニューアルを図り、中央部の目立つ箇所からワンクリックであみまるくんのページに飛べるように改善した。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの落ち着きもあり、登録者数・利用者数ともに昨年度よりも更に復調となっている。</li> <li>・高齢者や公共交通不便地域の移動手段の確保につながっている。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標である月当たり平均利用者数958人に対し、1000人(対前年比114.7%)となっている。</li> <li>・新型コロナウイルスの落ち着き、5類移行に伴い外出が増え、自粛していた利用者が再度利用を始め、周知促進・町ウェブサイト改善との相乗効果で目標値・前年比ともに想定を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者、利用者とも増加傾向だが、よりデマンド交通の認知度を向上させるため、ウェブサイト内の利用案内拡充や掲示物、広報、自治会への回覧等で周知促進を行う。</li> <li>・地域公共交通計画に基づいたデマンド交通の運行・施策を実施していく。</li> <li>・茨城大学への受託研究依頼を再開させた事により、乗合率の上昇について研究を行っていく。</li> </ul>
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	広報誌への記事掲載や利用案内の回覧、町ウェブサイトの改修など利用促進を図り、月当たり平均利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続きデマンド交通の認知度向上のため周知活動に取り組まれることを期待する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: 五霞町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
朝日自動車(株)	<p>○フィーダー系統 五霞町コミュニティ交通 ・系統(路線定期運行) 朝晩ルート(江川本村～南栗橋駅)7.4km 日中ルート(江川本村～ベシア)17.9km 日中ルート(江川本村～南栗橋駅)14.6km ・運行回数 朝晩ルート(江川本村～南栗橋駅)8.5回/日 日中ルート(江川本村～ベシア)3回/日 日中ルート(江川本村～南栗橋駅)1回/日 ・運賃 200円/割引(100円)</p>	<p>令和4年度に引き続きホームページや広報紙、町行事などで周知活動を行ってきたが、利用者の減少となってきた。令和4年11月からは、事業者と協議を行い、ダイヤ改正を行った。</p>	A	<p>ホームページや広報紙の周知活動及び会議やイベントでの周知活動も実施できた。</p>	C	<p>目標: 16,146人 実績: 14,954人 令和3年度から4年度にかけ利用者も増加傾向にあったが、ホームページ、広報紙、町行事等で周知活動を行ってきたにも関わらず、今年度は減少へ転じてしまった。</p> <p>現在バスが走行していない空白地域の住民から以前よりバスを通してほしいという要望が寄せられており、今後新たなシステムを導入、現在の日中ルートをオンデマンド型に移行し、利用者の利便性の向上、利用者数の増加を目標とする。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>町内イベントでのPR、ホームページや広報誌への記事掲載など周知活動を実施し、バスの利用促進を図る取組みは評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>
-------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月19日

協議会名: 東海村地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
茨城交通株式会社	茨城東病院線 系統:東海駅東口～茨城東病院(5.9km) 運行回数:7回/日 運賃:170円～340円	利用状況,利用者ニーズの把握に努め,更なる利用者の増加を図るため,運行ダイヤの改善に取り組むとともに,事業所と一体となってイベント時に公共交通のPRを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり,適切に実施された	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した</p> <p>&lt;目標&gt; ・路線バスの利用者数の確保 【全路線】 85,000人⇒85,641人 【対象路線】 51,000人⇒51,384人</p> <p>&lt;効果&gt; バス路線がなく,デマンドタクシーの運行時間外において公共交通が空白となる地区を解消する。</p> <p>&lt;達成状況の分析&gt; コロナ禍が明け,路線バスの利用者数は,村内の大規模事業所の通勤に利用されていることも影響し,増加(復調)傾向にあり,目標を達成することができた。一方で,地域によって路線バスを利用しない地区も見受けられることから,引き続き利用促進に努め,採算性の確保に取り組む。</p>	通勤・通学での利用をさらに促し,利用者数の増加を図るため,村内事業所や地域住民等に対する啓発活動に努め,持続可能な公共交通網の形成を目指す。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>運行事業者や地域の事業者と連携したPR活動や近隣自治体と連携した住民への呼びかけにより公共交通の利用促進を図り,路線バスの利用者数の目標を全路線及び対象路線ともに達成されたことを評価する。引き続き住民等への啓発活動に努め,公共交通の利用促進に取り組まれることを期待する。</p> <p>また,第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を巻き込み,自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</li> <li>・定量的な目標を示し,関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</li> </ul>
---------------------------------	--

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月26日

協議会名: 城里町地域交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茨城交通株式会社	①常北中学校～岩下入口 ②常北中学校～大網～赤沢観音前	毎月実施している乗降調査を基に需要動向を把握するとともに以下の施策を実施。 昨年度に引き続き長距離路線の分割(折り返し運行)を実施(これにより折り返し運行便は国補対象外の系統となっている)	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1日当たりの利用者数25.0人以上、収支率24.8%以上の目標に対し1日当たり利用者数20.4人、収支率11.0%であった。  新型コロナウイルス感染症については、事業年度中である令和5年5月に、感染症法上の位置付けが5類になったものの、需要動向に影響があったものと考えられる。更には原油価格や物価の高止まりが経営(収支率)に影響を与えている。	・原油価格上昇をはじめとする、物価高騰に対応していくことが必要になる。 ・今後の利用実態・ニーズを踏まえ定期的な運行態様の見直しや、利用啓発活動に努める。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	乗降調査を毎月実施し利用者の需要動向を把握しているについては評価できるが、1日当たりの利用者数及び収支率の目標は未達成となった。 引き続き利便性向上の取組や、利用促進に取り組まれることを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
-------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 31日

協議会名: 行方市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東グリーンバス(株)	系統名: 広域連携路線バス(鹿行北浦ライン) 運行区間: 道の駅いたこ〜水郷潮来バスターミナル・潮来駅・延方駅・レイクエコー・麻生庁舎〜あそう温泉「白帆の湯」(天王崎)(33.7km) 運行回数: 12回/日 運賃: 200円(均一料金)	市営路線バスの再編を実施し、広域路線バス等との乗継を強化し、利便性向上を図るが、新規利用者の獲得等の取り組みについては、十分に実施できなかった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。 運行日数: 365日	A ・年間利用者数 目標: 8,760人 実績: 9,765人 ・1便あたり利用者数 目標: 2.0人/便 実績: 2.7人/便 コロナ禍による移動制限の緩和により、目標を達成した。	「行方市地域公共交通計画」に基づき、市民ニーズや生活圏を考慮した市営路線バス運行計画や広域バスの利用促進策等を茨城県及び連携市と実情に合わせ再検討する。
関東鉄道(株) (株)池田交通	系統名: 鹿行広域バス(神宮あやめ白帆ライン) 運行区間: チェリオ・イオン〜鹿島神宮駅・延方駅・水郷潮来バスターミナル・潮来駅〜麻生庁舎(31.5km) 運行回数: 16回/日 運賃: 200円〜500円	市営路線バスの再編を実施し、広域路線バス等との乗継を強化し、利便性向上を図るが、新規利用者の獲得等の取り組みについては、十分に実施できなかった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。 運行日数: 365日	A ・年間利用者数 目標: 29,889人 実績: 33,560人 ・1便あたり利用者数 目標: 5.1人/便 実績: 5.7人/便 コロナ禍による移動制限の緩和により、目標を達成した。	「行方市地域公共交通計画」に基づき、市民ニーズや生活圏を考慮した市営路線バス運行計画や広域バスの利用促進策等を茨城県及び連携市と実情に合わせ再検討する
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	市営路線バスの再編の実施や、広域路線バスとの乗り継ぎ強化など利用者の利便性向上に努め、年間利用者数及び1便当たり目標を達成されたことを評価する。 引き続き、近隣市と連携し路線バスの利用促進や地域活性化を図る取組に期待する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月24日

協議会名: 潮来市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関鉄グリーンバス(株) ※申請番号(1)、(2)、(3)	系統名: 広域連携路線バス(鹿行北浦ライン)(33.7km) 運行回数: 12回/日 運賃: 200円(均一料金)	広報誌による住民への周知の他、観光客の利用促進を目的に潮来駅から水郷潮来バスターミナル間の広域路線バス時刻表を抜粋したチラシを作成するなど利用促進を行った。今後は今年度実施しているニーズ調査を踏まえ、ニーズに即した運行形態へ改善を図っていく予定。	A 計画どおり事業は適切に実施された。 運行日数: 365日	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・利用者数 目標2.0人/便 実績2.2人/便 分析: コロナ禍による移動制限の緩和、利用促進チラシの効果により利用者が増加したと考えられる。	「潮来市地域公共交通計画」に基づき、今年度実施しているニーズ調査等の結果を踏まえ路線再編やダイヤ編成の改善について関係機関と協議していきたい。
関東鉄道(株) (株)池田交通 ※申請番号(4)、(5)	系統名: 鹿行広域バス(神宮あやめ白帆ライン)(31.5km) 運行回数: 16回/日 運賃: 200円~500円	広報誌による住民への周知の他、観光客の利用促進を目的に潮来駅から水郷潮来バスターミナル間の広域路線バス時刻表を抜粋したチラシを作成するなど利用促進を行った。今後は今年度実施しているニーズ調査を踏まえ、ニーズに即した運行形態へ改善を図っていく予定。	A 計画どおり事業は適切に実施された。 運行日数: 365日	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・利用者数 目標5.1人/便 実績5.7人/便 分析: コロナ禍による移動制限の緩和、利用促進チラシの効果により利用者が増加したと考えられる。	「潮来市地域公共交通計画」に基づき、今年度実施しているニーズ調査等の結果を踏まえ路線再編やダイヤ編成の改善について関係機関と協議していきたい。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	広報誌への掲載やチラシの作成・配布など住民及び観光客への周知活動の実施により、利用者数の目標が達成されたことを評価する。 引き続き近隣市と連携し利用促進や公共交通の維持確保への積極的な取組を期待する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・観光路線については国内観光にとどまらず、インバウンドをターゲットとしたプロモーションもご検討いただきたい。				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月23日

協議会名: 下妻市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関鉄パープルバス(株)	<p>(1)下妻市コミュニティバス 系統:ピアスパークしもつま～ 小貝川ふれあい公園 下妻駅～小貝川ふれあい公園 運賃:200円</p> <p>(2)筑西下妻広域連携バス 系統:下妻駅～川島駅 下妻駅～ピアスパークしもつま～ 川島駅 運賃:200円 ※車両減価償却費補助活用</p>	<p>市および関東鉄道主催のイベントにて共同でPRを行い、公共交通機関の利用促進を行った。</p> <p>また、事業者と連携し、交通状況や道路状況等を踏まえた一部ルートの変更を実施した。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>下妻市地域公共交通計画に定める目標のうち、収支率の目標については達成できなかった。</p> <p>○目標 ・利用者数:26,400人以上 ・収支率:15%以上</p> <p>○実績 ・利用者数:34,169人 ・収支率:14.8%</p>	<p>・収支率の向上が課題であるため、引き続き効果的なモビリティマネジメントを実施し、公共交通の利用を促進する。</p> <p>・利用目的や利用傾向の分析を進め、ピーク時以外にも利用者を獲得できるような取り組みを実施する。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>収支率の目標は達成できなかったものの、駅にて開催されたイベントでのPR活動など公共交通の利用促進に取り組み、利用者数の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>引き続き事業者と連携し、公共交通のPRや利用促進に取り組まれることを期待する。</p> <p>また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</li> <li>・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</li> </ul>
--	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月31日

協議会名: 常陸太田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
茨城交通株式会社	路線名: 東部地区循環線 申請系統名: 東部地区循環(特例) (53014) 運行系統: 常陸太田駅~フォレストモール 常陸太田~常陸太田駅		A 運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員14人/日 収支率36.0% 【実績】 利用人員1.8人/日 収支率 5.7%	<p>【全体】 「常陸太田市地域公共交通計画」(令和4年3月策定)、「常陸太田市利便増進実施計画」(令和4年3月策定)に基づき、事業者と連携し、公共交通マップや利用促進チラシの配布、乗り方教室、路線バスツアー等を継続する。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。</p> <p>【東部地区循環線】 令和5年4月22日より運行している系統。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。</p> <p>【幸久・佐竹線】 令和6年3月31日をもって廃止予定。</p>
茨城交通株式会社	路線名: 幸久・佐竹線 申請系統名: 幸久・佐竹(特例)(53009) 運行系統: 常陸太田駅~西(東)二丁目~上坪	【全体】 「常陸太田市地域公共交通計画」(令和4年3月策定)、「常陸太田市利便増進実施計画」(令和4年3月策定)に基づき、事業者と連携し、公共交通マップや利用促進チラシの配布するとともに、バスの乗り方教室、路線バスツアー等を計画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、実施することができた。	A 運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員7人/日 収支率8.8% 【実績】 利用人員5.4人/日 収支率 8.3%	
茨城交通株式会社	路線名: 幸久・佐竹線 申請系統名: 幸久・佐竹(特例)(53012) 運行系統: 常陸太田駅~フォレストモール 常陸太田~上坪	【東部地区循環線】 - 【幸久・佐竹線】 令和4年4月より幸久・河合線と松栄・佐竹線を統合し運行している系統。 令和5年4月に複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施した。	A 運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員7人/日 収支率8.8% 【実績】 利用人員1.1人/日 収支率 3.1%	
茨城交通株式会社	路線名: 幸久・佐竹線 申請系統名: 幸久・佐竹(特例)(53013) 運行系統: 常陸太田駅~カインズ常陸太田~上坪		A 運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	B 【目標】 利用人員7人/日 収支率8.8% 【実績】 利用人員3.4人/日 収支率 9.0%	
茨城交通株式会社	路線名: 西小沢線 申請系統名: 西小沢(特例)(54001) 運行系統: 道の駅ひたちおた~総合福祉会館~堅磐	令和4年4月より運行している系統。 令和5年4月に複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施した。	A 運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	B 【目標】 利用人員4人/日 収支率6.4% 【実績】 利用人員2.7人/日 収支率 6.5%	

茨城交通株式会社	路線名:西小沢線 申請系統名:西小沢(特例)(54005) 運行系統:道の駅ひたちおおた～総合福祉会館～堅磐	-	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員4人/日 収支率6.4% 【実績】 利用人員1.3人/日 収支率 4.7%	令和5年4月22日より運行している系統。 令和6年3月31日をもって廃止予定。
茨城交通株式会社	路線名:西小沢線 申請系統名:西小沢(特例)(54006) 運行系統:道の駅ひたちおおた～総合福祉会館～堅磐	-	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	B	【目標】 利用人員4人/日 収支率6.4% 【実績】 利用人員1.8人/日 収支率 6.9%	
茨城交通株式会社	路線名:上宮田代線 申請系統名:上宮田代(特例)(58105) 運行系統:太田営業所～常陸太田駅～上宮田代	金砂郷地区より常陸太田駅周辺に接続する系統。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員71人/日 収支率17.4% 【実績】 利用人員12.5人/日 収支率 9.0%	今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:上宮田代線 申請系統名:上宮田代(特例)(58108) 運行系統:太田営業所～常陸太田駅～上宮田代	金砂郷地区より常陸太田駅周辺に接続する系統。 旧金砂郷小学校、旧久米小学校(令和4年4月より新金砂郷小学校へ統合)の児童が通学するために利用。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	A	【目標】 利用人員23人/日 収支率17.4% 【実績】 利用人員55.7人/日 収支率 47.8%	
茨城交通株式会社	路線名:上宮田代線 申請系統名:上宮田代(特例)(58109) 運行系統:総合福祉会館～常陸太田駅～上宮田代	運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。 令和5年4月に複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施した。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員18人/日 収支率17.4% 【実績】 利用人員2.9人/日 収支率 8.7%	令和5年4月21日をもって廃止。同地区の運行については、令和5年4月22日から上宮田代線(申請系統58111)が担う。
茨城交通株式会社	路線名:上宮田代線 申請系統名:上宮田代(特例)(58111) 運行系統:総合福祉会館～常陸太田駅～上宮田代	-	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員23人/日 収支率17.4% 【実績】 利用人員3.2人/日 収支率 8.1%	今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。

茨城交通株式会社	路線名:久米・大藪線 申請系統名:久米・大藪(特例)(59016) 運行系統:総合福祉会館～西(東)二丁目～大藪	平成28年10月の再編時に、市民バスから路線バスへ移行し、週2日の運行を週5日(平日毎日)の運行とし、令和4年4月より「久米・大藪線」として運行している系統。 令和5年4月に複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施。 また、運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	A	【目標】 利用人員4人/日 収支率4.5% 【実績】 利用人員4.9人/日 収支率 7.2%	令和5年4月21日をもって廃止。同地区の運行については、令和5年4月22日から久米・大藪代線(申請系統58202、58203)が担う。
茨城交通株式会社	路線名:久米・大藪線 申請系統名:久米・大藪(特例)(58202) 運行系統:総合福祉会館～常陸太田駅～大藪	-	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	B	【目標】 利用人員4人/日 収支率4.5% 【実績】 利用人員2.8人/日 収支率 7.8%	令和5年4月22日より運行している系統。 令和6年3月31日をもって廃止予定。
茨城交通株式会社	路線名:久米・大藪線 申請系統名:久米・大藪(特例)(58203) 運行系統:総合福祉会館～常陸太田駅～大藪	-	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	B	【目標】 利用人員4人/日 収支率4.5% 【実績】 利用人員2.1人/日 収支率 5.5%	
茨城交通株式会社	路線名:瑞龍線 申請系統名:瑞龍(特例)(52035) 運行系統:総合福祉会館～ここキラ前～瑞龍浄水場	平成28年10月の再編時に、市民バスから路線バスに移行した系統で、誉田小学校へ通学するために利用。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員41人/日 収支率34.4% 【実績】 利用人員37.8人/日 収支率 31.3%	今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(51124) 運行系統:総合福祉会館～西(東)二丁目～逆久保上	平成28年10月の再編時に、市民バス及びスクールバスから路線バスに移行した系統で、機初小学校へ通学するために利用。 令和5年4月に瑞竜中学校の通学利用への対応及び複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員82人/日 収支率32.4% 【実績】 利用人員26.1人/日 収支率 9.5%	令和5年3月31日及び4月21日をもって廃止。同地区の運行については、令和5年4月1日から機初線(申請系統51132)が、令和5年4月22日から機初線(申請系統51139、511338、51140)がそれぞれ担う。

茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(51139) 運行系統:総合福祉会館～常陸太田駅～逆久保上		A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員82人/日 収支率32.4% 【実績】 利用人員4.7人/日 収支率 5.5%	令和5年4月22日より運行している系統。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(51138) 運行系統:総合福祉会館～西(東)二丁目～逆久保上	-	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員82人/日 収支率32.4% 【実績】 利用人員2.9人/日 収支率 5.8%	令和5年4月22日より運行している系統。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(51132) 運行系統:総合福祉会館～西(東)二丁目～逆久保上		A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員82人/日 収支率32.4% 【実績】 利用人員23.2人/日 収支率 24.8%	令和5年4月1日より運行している系統。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、運行事業者だけでなく周辺の学校等とも連携し、通学者等への利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(51140) 運行系統:総合福祉会館～西(東)二丁目～逆久保上		A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員82人/日 収支率32.4% 【実績】 利用人員6.3人/日 収支率 6.9%	令和5年4月22日より運行している系統。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(51125) 運行系統:造宗～はたそめ団地中央～機初小学校	平成28年10月の再編時に、市民バス及びスクールバスから路線バスに移行した系統で、機初小学校へ通学するために利用。 令和5年4月に瑞竜中学校の通学利用への対応に伴うルートの見直しを実施。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員75人/日 収支率80.4% 【実績】 利用人員44.2人/日 収支率 40.3%	令和5年3月31日をもって廃止。同地区の運行については、令和5年4月1日から機初線(申請系統51134、51135)が担う。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(51134) 運行系統:造宗～はたそめ団地中央～機初小学校		A	運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員75人/日 収支率80.4% 【実績】 利用人員30.3人/日 収支率 28.1%	令和5年4月1日より運行している系統。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。

<p>茨城交通株式会社</p>	<p>路線名: 機初線                  申請系統名: 機初(特例)(51135)                  運行系統: 常陸太田駅～はたそめ団地中央～造宗</p>	<p>A</p>	<p>運行事業者と連携し、路線バス全体としての利用促進に努めた。</p>	<p>C</p> <p>【目標】                  利用人員75人/日                  収支率80.4%                  【実績】                  利用人員4.5人/日                  収支率 7.5%</p>	<p>と利用促進策について検討をしていく。また、運行事業者だけでなく周辺の学校等とも連携し、通学者等への利用促進策について検討をしていく。</p>
-----------------	--	----------	--------------------------------------	---	---

<p>地方運輸局等における                  二次評価結果                  (関東運輸局)</p>	<p>公共交通マップや利用促進チラシの配布に加え、事業者と連携してバスの乗り方教室、路線バスツアーの計画などの利用促進に取り組み、利用人数及び収支率の目標を達成されたことを評価する。一部の達成できなかった目標についても、引き続き運行事業者などと連携して利用促進策を検討されることを期待したい。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</li> <li>・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</li> </ul>
--	--

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)(案)

資料

令和5年11月20日

協議会名: 桜川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関鉄パープルバス株式会社	筑波山口・桜川市役所岩瀬庁舎間	運行実態を把握し、利用者の利便性向上につながる運行計画の見直しを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 利用者1運行16人の目標に対し、実績は17.4人で目標を達成した。  収支率22%の目標に対し、実績は21.8%で目標が達成できなかった。(フィーダー外系統を含む。)	【今後の改善点】 ・運行事業者からの利用人数報告や乗降客数の多い停留所の利用者属性を確認する調査等を行うことで利用実態を把握する。また、地域住民の要望を踏まえて運行の改善を図っていく。
	筑波山口・地域医療センター経由・桜川市役所岩瀬庁舎間				
	筑波山口・真壁城跡間				
	筑波山口・雨引観音経由・桜川市役所岩瀬庁舎間				

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	地域の集会でのコミュニティバスのPRや運行計画の見直しなど、利用促進、利便性向上に取り組まれ、1運行あたり利用者数の目標を達成したことを評価する。惜しくも未達成となった収支率目標についても、引き続き利用促進及び利便性向上の取組を実施されることを期待する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
---------------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月22日

協議会名: 筑西市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関鉄パープルバス(株)	(1)筑西市広域連携バス 系統:下館駅北口-明野支所前-筑波山口 運行回数:6回/日 運賃:200円  (2)筑西市広域連携バス 系統:下館駅北口-明野中学校・茨城県西部メディカルセンター・廣澤美術館-筑波山口 運行回数:10回/日 運賃:200円	「周辺環境や行動特性の変化などへの対応」「利用促進に関するイベント等の実施」との事業評価を受けて、以下の対策を実施した。  ・バス運行委託プロポーザル実施による利用者増の確保策などの提案募集、契約に向けての協議 ・公共交通の情報を一元化したマップの配布や公共交通フェアなどのモビリティマネジメント	A 計画に基づき、適切に事業を実施した。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標:129人(1日当たりの利用者数) 実績:145.82人 分析:利用促進の取り組みの効果によると考えられる。	・通勤、通学者の利用時間帯に合わせたダイヤ改正など、利用者のニーズに応じた改善を進めていく。 ・地域への出前講座やイベントを実施し、利用促進を図る。 ・高校生に向けて、高校通学におけるバス利用を促し、路線バスの利用者数の増加を図る。 ・収支率をさらに上げるため、運賃以外の収入源として、バス広告(ラッピング等)を積極的に進めていく。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	市内中学生向けの乗車券付きチラシの配布や、公共交通フェアでの広報活動など公共交通の認知度向上及び利用促進に取り組み、1日当たりの利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き公共交通の周知活動や利用者の利便性向上に取り組みを期待する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
-------------------------	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月25日

協議会名: 常陸大宮市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茨城交通株式会社	緒川・玉川村駅線 系統:上小瀬十文字～玉川村駅(7.2km) 計画運行日数:291日 計画運行回数:291回 運賃:200円	利用促進の取組として、入学時期に合わせて生徒にガイドブック等の配布を行った。また、イベントへの出展や中学校に出向いての乗り方教室を開催した。 また、今年度は、地域特性や利用者ニーズに対応した路線の再編について事業者と協議を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された	B 事業が計画に位置付けられた目標を一部達成出来なかった。 【目標】 利用率:15% 満足度:3.00 年間利用者数:590人 【実績】 利用率:28% 満足度:2.59 年間利用者数:499人 【分析】人口減少等の影響により、利用者数が目標を達成出来なかった。今年度は1運行当たりの輸送人員が2.0人を下回ったため補助対象外となった。	公共交通の利用者数増加を図るため、引き続き、事業者や学校等と連携して利用促進活動に取り組んでいく。 今後は、効率的な運行の形態の構築を図るため、地域の特性や利用状況等に対応した路線の再編を行う。
茨城交通株式会社	小場・村田線 系統:小場公民館～大宮駅前(8.1km) 計画運行日数:291日 計画運行回数:436.5回 運賃:200円	利用促進の取組として、入学時期に合わせて生徒にガイドブック等の配布を行った。また、イベントへの出展や中学校に出向いての乗り方教室を開催した。 また、今年度は、地域特性や利用者ニーズに対応した路線の再編について事業者と協議を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された	B 事業が計画に位置付けられた目標を一部達成出来なかった。 【目標】 利用率:15% 満足度:3.00 年間利用者数:880人 【実績】 利用率:28% 満足度:2.59 年間利用者数:921人 【分析】年間利用者数の目標は上回ることが出来たが、新たな生活様式等の定着により、前年度よりも利用者数が減少した。	公共交通の利用者数増加を図るため、引き続き、事業者や学校等と連携して利用促進活動に取り組んでいく。 今後は、効率的な運行の形態の構築を図るため、地域の特性や利用状況等に対応した路線の再編を行う。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)  
 地域学生へのガイドブックの配布や乗り方教室の開催など、利用促進に取り組まれ、利用率及び年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。未達成となった満足度の目標についても引き続き、利用者のニーズに対応する再編など利便性向上や利用促進の取組を実施されることを期待する。  
 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。  
 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。  
 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月26日

協議会名: 鹿嶋市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道(株) (株)池田交通	系統名:鹿行広域バス(神宮あやめ白帆ライン) 運行区間:チェリオ・イオン~鹿島神宮駅・延方駅・水郷潮来バスターミナル・潮来駅~麻生庁舎 運行回数:16便/日 運賃:200円~500円	新型コロナウイルスによる影響にも落ち着きが見られ、運行区間内の自治体での利用促進策等により、利用者数はコロナ禍以前の水準を上回り、増加傾向がみられる。	A 計画どおり、適切に実施された。 運行日数365日	A ・1便当りの利用者数 目標 5.1人/便 実績 5.7人/便 ・年間利用者数 目標29,889人 実績33,560人 コロナ禍による利用減少から回復し、目標を達成。	R6年度から計画期間となる「鹿嶋市地域公共交通計画」に位置付け、利用者ニーズ等の把握に努め、関係機関と利用促進策を協議していく。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>新高校生にお試し乗車券付きリーフレットを配布するなど、利用促進に取り組み、1便当りの利用者数及び年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き利用者ニーズの把握に努め、沿線自治体及び運行事業者等と連携した利用促進の取組を実施されることを期待する。</p> <p>また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。</li> <li>・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</li> </ul>				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月29日

協議会名: 稲敷市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東鉄道(株)	稲敷エリア広域バス 系統:江戸崎～ひたち野うしく 駅(22.9km) 運行回数:5回/平日、4回/休日 運賃:170～820円	学生通学定期券補助制度の認知度が徐々に広まりつつある。市内中学校へのチラシ配布、広報誌への掲載等を継続し周知活動を行った。 利用者の乗降データ等をもとに、今後の再編等に向けた検討を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	B 計画に位置付けられた事業が目標を達成できていない点があった。 目標:5.0人/便 実績:3.6人/便(R4 3.4人/便) 分析:前年度より増加したものの、目標を達成できなかった。	「稲敷市地域公共交通計画」に基づき、関係市町村や運行事業者と連携し、利用促進策の検討を行い、持続可能な路線バス運行を目指す。 通学定期券補助制度の継続と更なる周知を図る。
晃進物流(株)	桜東バス:新利根神崎線 系統:①JA稲敷直売所～(道の駅経由)～下総神崎駅(32.1km)②JA稲敷直売所～(道の駅経由無し)～下総神崎駅(28.2km)③JA稲敷直売所～幸田車庫(21.8km) 運賃:170～510円 ※車両減価償却費補助活用(ノンステップバス2両)	学生通学定期券補助制度の認知度が徐々に広まりつつあり、活用者が微増している。市内中学校へのチラシ配布、広報誌への掲載等を継続した。 利用状況等から、更なる利用者増加に向けたダイヤの改善等、検討を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	B 計画に位置付けられた事業が目標を達成できていない点があった。 目標:2.4人/便 実績:2.2人/便(R4 2.9人/便) 分析:定期券補助等の取組みにより活用者が増加したものの、目標を達成できなかった。	「稲敷市地域公共交通計画」に基づき、関係市町村や運行事業者と連携し、学生定期券補助の継続を含め住民等への利用促進策の推進を行い、更なる利用者増加を図る。
ブルーバス(株)	ブルーバス浮島線 系統:江戸崎～パルナ前(23.4km) 運行回数:7回/平日、4回/休日 運賃:170～490円 ※車両減価償却費補助活用(ノンステップバス1両)	学生通学定期券補助制度の認知度が徐々に広まりつつある。市内中学校へのチラシ配布、広報誌への掲載等を継続した。 利用状況等から、更なる利用者増加に向けたダイヤの改善等、再編の検討を行った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標:2.4人/便 実績:0.8人/便(R4 1.2人/便) 分析:人口減少が著しく、過疎地域の指定を受けるなどの背景もあり利用者の増加が見込めず目標を達成できなかった。	「稲敷市地域公共交通計画」に基づき、効果的なダイヤ再編等の検討は行ったものの、地域住民等との調整ができず協議を行う事ができなかった。 全体的な交通体系の見直しを検討し、市民からのアンケートやデータ分析により改善策の検討を行う。

地方運輸局等における  
二次評価結果  
(関東運輸局)

市内学校へのチラシ配布や広報誌掲載など利用促進に取り組まれたことは評価できるが、1便当たりの利用者数の目標は未達成となった。通学定期券補助制度が広まり、申請者数が徐々に増えている点は評価できるため、引き続き周知活動や利用促進に取り組まれることを期待したい。

また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。
- ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: 守谷市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
守谷市地域公共交通活性化協議会(運行主体:守谷タクシー株式会社、関鉄タクシー株式会社、小川交通株式会社、株式会社守谷福祉協会)	守谷市デマンド乗合交通 営業区域:市内全域 月曜から土曜日、祝日 運行時間:8:00~16:30 運賃:300円(障害者手帳及び療育手帳保持者は200円)	警察機関にもチラシ等でデマンド乗合交通及び高齢者運転免許自主返納支援事業の案内を行っていただき利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられた通り適切に実施された。	A 目標人数16,600人のところ、20,233人となり、目標を達成した。利用登録者数が増加し運行本数が増えたことに加え、乗合率が平均5%程上昇したことが大きな要因と考えられる。	利用数増加に伴い、予約の断り数も増加している。より多くの方が利用できるよう、ルール等の見直しを含めた混雑緩和策を検討する必要がある。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	警察機関と連携した運転免許自主返納支援事業のチラシ配布や商業施設と連携した割引券の発行など、積極的に関係機関と連携した利用促進に取り組み、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。市内事業者の協力の下ノーマイカーウィークという公共交通の利用機会創出の取組も評価できる。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。				

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名:高萩市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
高萩市乗合タクシー協議会(運行事業者:高萩タクシー(株)、(有)東タクシー)	<p>山間地域や市街地空白地域において、需要に応じて運行するデマンド型乗合タクシーを導入し、公共交通空白地域の解消を図る。</p> <p>【デマンド型乗合タクシー(山間地域)】                      運行区域:山間地域                      運行日:月曜～金曜(祝日、年末年始運休)                      運行時間帯:8時00分～18時30分                      運行本数:8便/日                      運賃:400円/回</p> <p>【デマンド型乗合タクシー(高戸常磐線東・赤浜地区)】                      運行区域:高戸常磐線東・赤浜地区                      運行日:月曜、水曜、金曜(祝日、年末年始運休)                      運行時間帯:8時30分～15時30分                      運行本数:6便/日                      運賃:400円/回</p>	<p>新規利用者獲得に向けて周知活動や他部署及び関係機関等と連携した取組をされるべきとの評価結果を受け、市内病院や高萩駅、公共施設に対し、内容を説明しポスターの掲示をお願いした。その結果、前年度から新規登録者が11名増え、新規利用者を獲得することができた。</p>	A	C	<p>・山間地域の一般利用者においては、対象人口は減少傾向であるものの輸送人員総数はほぼ横ばいとなった。(1,151人→1,142人)                      一方、通学用において利用する子どもの減及び下校便の利用減により輸送人員総数が減少。(1,111人→886人)                      全体として、減った状況となっている。                      ・市街地空白地域においては、新規登録者が1名増えたものの、昨年度と比較し利用者総数は増えていない状況である。</p> <p>・運転免許を自主返納する市民が増加傾向にあるなか、山間地域、市街地空白地域の市民は返納率が全体の約6%にとどまっている。移動手段が減ることに対し不安をもつ市民もいると思われるため、引き続き市ホームページ、市報、くらしの便利帳等のほか、関係機関に対しデマンド型乗合タクシーの周知を行い、利用者数の増加を図る。                      ・本市では65歳以上で運転免許を自主返納した人を対象に、バス及び乗合タクシーで利用できる交通利用券3万円を交付している。乗合タクシー運行対象地域においても年間数名が申請しているため、申請のタイミングで乗合タクシーへの申請が同時にできるよう、他部署と連携し、上記の周知を含め取り組む。</p>
茨城交通株	<p>比較的利用者の少ない時間帯をダイナミックルーティングに移行し、需要に応じて柔軟に運行させることにより、利用者の利便性を図る。</p> <p>【ダイナミックルーティング(MyRideのるる)】                      運行エリア:常磐自動車道よる東側の地域                      運行日・時間帯                      平日概ね8:30～15:00                      土日祝概ね9:00～14:00                      (年末年始やお盆などは土日祝として運行、1月1日～3日は運休)                      バス停車:237箇所(既存バス停96箇所、仮想バス停141箇所)                      運賃:300円/回</p>	<p>初年度につき該当なし</p>	A	C	<p>令和8年度までに、令和3年度と比較し、住民1人あたりの路線バス利用回数を0.5ポイント増の目標としているが、0.1ポイント減となった。(※ダイナミックルーティングにした路線に絞り算出)</p> <p>分析                      本格運行となり1年が経過し、現在も新規登録利用者は毎月50人以上増えている。ダイナミックルーティングを運行している日中の利用時間は増えているものの、朝夕の定時定路線の利用が減少傾向にあることが理由と考えられる。</p> <p>・利用登録者は毎月50人以上増加しているため、徐々に浸透しつつある。アプリと電話での予約比率が4.5:5.5と電話での予約が依然として多く、時間帯によっては繋がりにくくなり予約をとれないこともあるため、今後よりアプリの利用促進を図り、アプリの使用に関し抵抗のある方に対し利用しやすいことを知ってもらう必要がある。</p> <p>・交通事業者が実施したアンケートを基に、利用者の意見を踏まえ検討を進め、連携しながら利用促進を図る。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

市内病院や駅などにポスターを掲示するなどの周知活動により利用促進に努めたことは評価できるが、輸送人員数や住民1人あたりの路線バス利用回数の目標は未達成となった。市内路線バスの通学定期券に対する助成や運転免許返納者への支援などの取組は評価できるため、引き続き公共交通の周知活動や利用促進に取り組まれることを期待する。  
 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。  
 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。  
 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 23日

協議会名: 神栖市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道株式会社	神栖コミュニティバス(鹿島神宮駅-小見川駅間) 系統: 鹿島神宮駅~小見川駅 21.7km 運行回数: 6便(3往復)/日 運行日: 月曜~日曜 (1/1~1/3運休) 運賃: 170円~560円(区間制) 運行車両: ノンステップバス	・利用者のニーズを踏まえた ダイヤ改正の検討	A 計画どおり事業は適切に実施された。 運行日数: 362日	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標: 3.7人/便(利用者数) 実績: 5.3人/便 分析: 通院・買い物・観光等での利用や鉄道駅からの二次交通として利用されている。	引き続き、利用者ニーズを踏まえたダイヤ改正の検討や、市内外の利用者に向けた利用促進施策を行い、利用者増に向けて事業を継続していきたい。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	屋根付きバス停・駐輪場を設置など利用者の利便性向上に取り組まれ、1便当たりの利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き、利用者のニーズを踏まえたダイヤ改正の検討など利便性向上や利用促進の取組を期待する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
---------------------------------	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月15日

協議会名: 八千代町公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)沢木交通	デマンド交通「八菜まわ～る号」 運行区域: 八千代町内全域 運行日: 月曜～金曜 (土日祝日、お盆8月13日～8月16日、年末年始12月29日～1月3日は運休) 運行時間帯: 8時00分～17時00分(8時便から16時便の1日9便) 運行本数: 9便/日 運行車両: 3台 運賃: 300円 (ただし、第1種身体・知的障がい者及び精神障がい1級の方の介添人1名、妊婦(母子手帳保持者)の介添人1名、未就学児は無料)	住民に対し、デマンド交通をさらに周知いただきたいとの評価結果を受け、下記の取組を行った。 ▼民生・児童委員定例会にて、八菜まわ～る号の利用登録募集及び高齢者運転免許自主返納支援事業(運転免許を自主返納した65歳以上の高齢者に対し、八菜まわ～る号の利用券30枚交付)を周知した。 ▼広報誌を活用し、八菜まわ～る号の無料乗車券を配布した。 ▼町秋まつりにおいて、利用登録募集及び車両を展示し、八菜まわ～る号のPRを行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 目標: 1日平均利用者数15.3人以上、年間延べ利用者数3,690人以上 実績: 1日平均利用者数13.37人、年間延べ利用者数3,221人 分析: 事業期間前半は新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛により利用者が減少したものと考えられる。	▼新規利用者を継続的に確保するため、引き続き、広報誌等を活用し、町イベント等でのPRに取り組む。 ▼町の高齢福祉部門と連携し、運転免許返納促進事業を継続して行い、高齢ドライバーの交通事故を防止するとともに、「八菜まわ～る号」の利用率向上に繋げる。 ▼町内の公共交通網を整備していくことで利便性を図り、今後、利用状況の推移を見ながら、さらに利便性の向上に向けた取組を行う。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	民生・児童委員定例会での利用登録募集や運転免許自主返納者への利用券配布、町内イベントでのPR活動により利用促進に取り組まれたことは評価できるが、1日平均利用者数や年間延べ利用者数の目標は未達成となった。引き続き、新規利用者確保のためのPR活動に努めるとともに、利用者の利便性向上の取組がなされることを期待する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
-------------------------	---

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月31日

協議会名: 銚田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)昭和観光 (株)かしま旅紀行 銚田観光バス(株) (有)出久根観光 出久根タクシー(有) 銚田タクシー(有) ヨヨギタクシー(有)	銚田市デマンド型乗合タクシー「ほこまる号」 営業区域: 銚田市内全域 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 500円 ※割引制度あり	引き続き広報活動等を継続し、新規利用者の獲得が必要との評価を受け、市広報誌への掲載や市内各施設と連携したPR、イベントでのチラシの配布等を実施した。また、運行事業者と運行状況や課題について共有を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・1日当たり平均利用者数 目標 50人以上 実績 60.2人 ・収支率 目標 9.5%以上 実績 11.3% 分析: 周知活動により認知され、利用者数が大きく増加し、目標を達成することができたと考える。	・認知度は上がっているものの、まだ知らない市民がいる。また、アンケートの結果でも内容を理解されていない利用登録者もいるので、認知度向上及び理解促進のため、市広報誌への掲載や市内各施設と連携したPR等を実施し、幅広く周知を図る。 ・利用者アンケートの結果を基に課題を検討する。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	市広報誌への掲載やイベントでのチラシ配布、市内施設と連携したPR活動などの利用促進に取り組み、1日当たり平均利用者数及び収支率の目標を達成されたことを評価する。Web登録・予約のシステムを導入や利用者へのアンケート調査を行い利用者ニーズの把握をするなど、利便性向上の取組についても評価できる。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。				

## 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年(2024年)1月18日

協議会名: つくば市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: つくば市地域内フィーダー系統確保維持計画

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新栄タクシー有限会社	筑波地区支線型バス「つくばね号」 系統 1:筑波ふれあいの里入口(つくば湯)～ 筑波中央病院(1号車) 2:筑波中央病院～筑波ふれあいの里 入口(つくば湯)(2号車) 3:筑波山口～筑波中央病院(1号車) ※部分運休運行 4:筑波中央病院～筑波山口(2号車) ※部分運休運行 ※運行回数は全系統4回/日 ※系統3と4は、以下の期間のみの運行 (筑波山口～筑波ふれあいの里入口(つく ば湯)は道路混雑により休止) ①紅葉時期(10月下旬～12月上旬) の土日祝日 ②GWシーズン(4月下旬～5月上旬) の土日祝日及 ③筑波山梅まつり開催中(2月中旬～ 3月中旬)の土日祝日 運賃:200円均一 ※高齢者割引など各種割引制度あり	-	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	C 【目標】 1便当たりの利用者:1.0人以上 【実績】 1便当たりの利用者:0.88人 (平日0.93人、土日祝日0.68人) 【分析】 部分運休運行の実施などにより 行楽シーズンの土日祝日の利用 者が伸び悩んでいる。	・交通結節点である「筑波山 口」でのつくバス北部シャトル との接続性向上を図る。 ・行楽シーズンの土日祝日の 利用者が伸び悩んでいること から、部分運休運行を見直 す。 ・筑波地区は高齢化率が高い ことから、フリー乗降制度な ど、高齢者の外出機会を促す ような施策を検討する。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	部分運休運行の実施により1便当たりの利用者数の目標は未達成となったが、病院の開始時間に合わせて朝の便を前倒したり、観光客の利用を見込んで増便をするなど利 便性向上につながるダイヤ改正を行っている点は評価できる。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。 ・観光路線については国内観光にとどまらず、インバウンドをターゲットとしたプロモーションもご検討いただきたい。				